

I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を十分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心をもち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの実態に沿って、指導計画の見直しを行う。教育保育の質の向上と保護者対応・保護者支援、安全管理などを図る。また、本園の特色である科学あそびを更に充実させていくことを重点項目とする。

III. 評価項目の達成及び取り組み（要約）

	評価項目	評価	取り組み
1	子どもの実態を把握し、生活やあそびの充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none">・教師間の話し合いや日々の反省の記録を参考にし、子ども一人ひとりの幼児理解に努めた。・一人ひとりが自己を発揮し、あそびを通して様々な経験を重ねられるような環境の構成に取り組んだ。
2	小学校と連携し、発達の連続性を踏まえてスムーズな接続を図る。	A	<ul style="list-style-type: none">・幼稚園と桜小学校1年部の教師が相互の研究会に参加し参観と協議を行い、教育のねらいや内容の違い、または共通点について理解が深まった。・就学時健診前や年度末には就学する子どもの引継ぎを、対面で行い、スムーズな接続に努めた。
3	保護者に幼稚園と保育園及びリトル園の情報や、子どもの姿等を伝える。	A	<ul style="list-style-type: none">・園の教育方針や取り組みをホームページや保護者懇談会や園便り、学年便りを通して情報発信した。・各クラス、子どもの姿を定期的に紹介する保育ドキュメンテーションを掲示した。教育保育の視点や育ちについて分かりやすく見える化し、保護者と共有を図り、安心感と信頼感に繋げた。

S：十分に成果があった A：成果があった B：少し成果があった C：成果がなかった

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資質向上のため教育保育を振り返り、園全体で取り組むべき課題を認識して改善していくように努力する。

V. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> 常に教育保育の資質向上を図る必要があること、乳幼児の学びは環境との出会いから生まれることから、育ちに必要な経験を重ねていくことができるよう、保育内容を見直し検討する。
保護者対応・保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との交流や連携を通して子どもの成長に気付き、子育ての喜びが感じられるよう働きかけていく。 支援を要する子どもの保護者や配慮が必要な保護者等、一人ひとりの個性や考えを受け入れながら、子どもの育ちを協力し合える関係を築けるように努める。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	基本的な生活習慣の定着への働きかけや、個々を大切にしたいあそびの中から学ぶきめ細やかな教育保育の様子が、ドキュメンテーションの掲示等により、振り返りと共に保護者にも伝わる等、いろいろな方面から子ども達について良く考えて、指導していることが伝わってきました。